

## <case1> カラオケ好きの A さん

平成 29 年 6 月、A さんと私たちは出会い(病院から入所され)ました。

A さんは、病院では鼻腔栄養…しかも、ミトンまで…。

私たち、特養のスタッフに伝えたい想いがありました。

「ちゃんと口から食べたい！」

悔しさ、辛さ、苛立ち、憤り…否、(僭越ながら…)私たちならばと信じて自ら鼻腔栄養を外されました。

「どうすればいいんだろう…？」

正直、迷い、悩みました。

そんな思いを断ち切るための特別カンファレンスを開きました。

専門職として口から食べるための“5つの根拠”をアセスメントした結果、全て該当！

(口から食べるための根拠は完璧！)

実行に移すための作戦をシェアしました。

早速、管理栄養士が「(好物の)饅頭を買いに行きたい」と購入伺いを上げると、施設長から直ちに決裁がおりました。

その間、介護職、看護職は、特別カンファレンスでシェアした条件を整えながら、饅頭の到着を待ちました。

A さんの想いを叶えるために、チームとして機能し始めた瞬間でした。

結果は…

「お饅頭食べられました！その後、バナナも食べてくださいました！夕食は、皆さんと同じメニュー(勿論、常食)をお出しします！」

と(若干、ハイテンションな)管理栄養士による情報伝達。

その情報は施設長にも報告され、施設中に幸せな気分になる情報が行き渡りました。

生活相談員からはご家族へ電話で報告！

電話越しにご家族の驚きと喜びが伝わってきました。

施設名にしている「花みずき」の花言葉には「返礼」という意味があるそうです。

A さんは、未来を変えたくて、幸せになりたくて、この施設を選んでくださり、入所してくださいました。

その想いに施設長はじめ全スタッフで、全力でお応えしました。

A さんの幸せそうな表情から、スタッフ一同、幸せな気分をお裾分けして頂きました！